

# インターポート

兵庫教育文化研究所だより

No.203

2019年7月16日

発行所 兵庫教育文化研究所  
〒650-0004

神戸市中央区中山手通 4-10-8

## ICTを活用した生徒主体の英語学習

外国語教育部会  
授業研究会

淡路市の中学校で外国語教育部会が授業研究会をおこないました。1年生の授業で、「be 動詞の疑問文をつかってやりとりをしよう」という内容です。淡路市の小中学校では、小学校4年生以上から授業で使えるタブレット端末が1人1台導入されています。今回の授業もタブレット端末を活用した場面が数多くありました。



最初に、音読をしながら、教科書本文をタイピングしていきました。その後、ペアと自己紹介をする場面があり、それぞれが例文をもとに自己紹介をするだけでなく、リテリング（言い換え）をしながら、相互評価をおこなっていきました。

授業の中心課題の場面では、Listening→Speaking→Writingの順にデジタルテキストを活用した授業が展開されました。「0.1秒後を追いかけるつもりで」「目を閉じて」など変化のあるSpeakingの後、「グループ内で30秒間練習」「全体で10人以上と会話しよう」などテンポある内容で子どもたちは教室を自由に移動しながら活動をおこないました。

授業の後半は、個に応じた課題の学習の時間になります。各自がその時間の自分のめあてと合格ラインを設定し、タブレット端末に入力します。そうすると授業者の手元に生徒が入力した内容が一覧として送られてくるので、授業者はそれを確認しながら、声をかけて回りとりくみのサポートをおこなっていました。



個々の課題にとりくむ場面では、ノート整理にとりくむ子、タブレットを活用した単語の習得練習や文法事項の確認にとりくむ子、さらに発展的に動画を活用した英語学習にとりくむ子などさまざま姿が見られました。子どもたちがいつでも活用できるようにと教室に学習アプリのQRコードが掲示されていたり、自由に使える文具や練習用紙が用意されていたりと、教室環境の工夫がうかがえました。最後にはその時間のとりくみの評価をタブレット端末に入力して報告することで、すぐに一覧として確認することができ、次の授業にむけた評価とすることができるようになっていきます。



授業後の話し合いでは、授業者から、「学習者中心の授業を意識して考えてきたことから、このような形の授業形態をとっていること」「小学校での発話を中心とした外国語のとりくみを中学校でもいい形で引き継いでいきたい」という話がありました。また、ICT機器の効果的な活用場面や、授業で活用できるアプリの紹介がありました。参観者からは、「書くことが苦手な子や個別の対応が必要な子にとって、タブレットの存在やこのような学習形態は効果的だと感じた」「振り返りの場面では、全体で今日の課題をおさえたり、特徴的なとりくみを紹介し交流したりすることで、学習集団としてのねらいも達成できるのではないか」などの意見が出され、それぞれの日頃のとりくみについても積極的に意見交換をおこないました。

(本授業の指導案は「組合員専用ページ」に掲載しています。ID、パスワードは各地域組合へお問い合わせください。)